

認定こども園の施設構成と空間デザインの調査研究

～異なる年代のこどもたちのための空間デザイン提案～

A2201504 池田 結

研究の背景

認定こども園は内閣府により、平成 18 年に全国に設置された。その目的は、少子化の進行や家庭、地域環境の変化に伴った、保護者や地域の多様化するニーズに応えるなどの他に、都市部では待機児童の緩和、地方では統合などの影響が挙げられる。認定こども園は幼稚園と保育園の要素が併合したことで、一見便利で利用しやすくなったように感じる。しかし、こどもを預ける保護者と、預かる保育者、それぞれで施設の運営や仕組みについては理解し合っているものの、施設者側の心身の負担が多いように感じる。また認定こども園ではこどもたちを 1～3 号認定に区分しており、その区分によって必要とされる保育、教育、園で過ごす時間が一人ひとり異なっている。それにより保育者の中には保育、教育、どちらを主軸に置き、こどもたちと接するべきなのか悩んだという声も挙がった。

これらの調査を踏まえ、認定こども園は設置されてから 11 年経った現在、認定こども園の機能、運営方法を考えた施設となっているのかを分析し、保護者、保育者が利用しやすく、こどもたちが安全に、各年代にあった活動ができるような認定こども園の施設内外のデザイン提案を行う。

研究の目的

本研究では、福島県内の認定こども園を訪問し、職員の方々のヒアリング、アンケートの結果から分かった問題点、要望を踏まえ、職員、こどもたち、保護者が利用しやすく、異なる年代のこどもたちに合った生活空間のデザイン提案を行う。また現在多くの教育機関が取り入れている「スクールコミュニティ」を導入し、まだ例のない認定こども園での※スクールコミュニティの形成方法を考えること目的とする。

※スクールコミュニティとは学校を核とし、地域社会の協働関係を良好なものにしていこうとする考え方や実践。

研究のプロセス



<アンケート結果のまとめ>

5 箇所の園の職員を対象に、合計 58 名の方にアンケート調査に協力して頂いた。

○アンケートから得たこと

- ・2 号認定 3 歳児専用の午睡室があると良い。
- ・0～2、3～5 歳児それぞれの成長にあった環境が必要で、0～5 歳児が交流することに重点を置きすぎるのも良くない。

<ヒアリング結果のまとめ>

訪問させて頂いた県内の認定こども園 7 箇所を含め、合計 8 箇所の園でヒアリングを行った。

○ヒアリングから得たこと

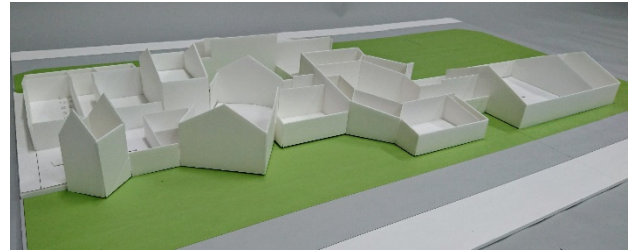
- ・基本的に 0~2、3~5 歳児は分けて保育している。
- ・3~5 歳児のクラス編成は、1、2 号認定が混在している。

成果物(完成作品)

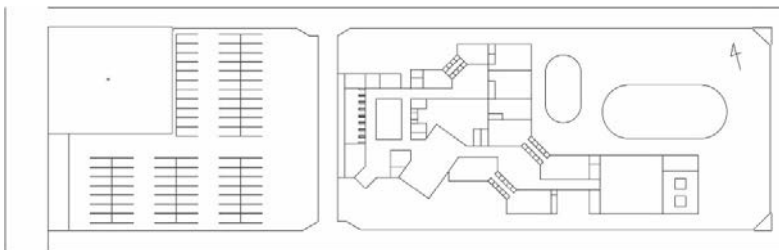
- ・デザイン模型、論文



↑ 建物を含めた敷地全体の模型(実物は 1/100)



↑ 認定こども園デザイン模型



←建物を含めた敷地全体の平面図
東西に長い敷地が特徴的で、
周辺には果樹園、
道路を挟んで東側には中学校が
ある。

まず、こどもたちの年代にあった空間デザインを軸にデザイン提案を行っていった。また職員がこどもたちの教育、保育をするに当たり、無駄な動線が生まれないよう心掛けた。0~2 歳児と 3~5 歳児のための生活空間は異なった点が多いため、それぞれ生活の仕方を考えつつ、0~5 歳児を交流させる場所と、落ち着かせる空間のメリハリをつけ、デザイン提案を行った。この他に、スクールコミュニティの場として外部を中心に考えた。スクールコミュニティの内容としては、選定敷地の周りには果樹園が多いことから、身の周りの食べ物に関する事柄を中心に取り入れようと考えた。

考察

認定こども園は保護者だけでなく、地域のニーズにも応えた運営方法となっていることから、非常に利用しやすい施設だと感じる。しかし、職員の中には教育と保育どちらに主軸を置き子どもたちと接すれば良いのか、また保育園と幼稚園での会議が別のため、どちらにも出席しなくてはならないなど、職員の戸惑いや負担が想像以上に大きい印象を受けた。

このことから、保護者や地域のニーズに応える運営を行うには、まず保育者が働きやすい環境を整えることが重要であると感じた。今回取り組んだ提案は保護者、保育者、こどもたちが利用しやすく過ごしやすい施設のデザイン提案であるが、保育者のこともしっかりと考えた運営方法にすることにより、そこで初めて本当の認定こども園としての機能を果たすことができるのではないかという結論に至った。そこから、行政にはこれからより保育士のための対策を真剣に考え、地域からより良い社会づくりを形成できる環境を整えて欲しいと考える。